

(別紙 12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	さくら福祉会 地域包括支援センターまつやま
実習期間	平成 30 年 9 月 3 日 ~ 平成 30 年 9 月 7 日
学生氏名	澤内康次
実習プログラム	1 日目……いきいき百歳体操、地域包括支援センターについての説明 専門職等の説明 2 日目……デイサービスでの介護体験 3 日目……小規模多機能型居宅介護事業所の見学 高齢者の実態把握調査 4 日目……グループホームの見学 5 日目……いきいき百歳体操、総括
学び・気づき (300 字程度)	地域包括支援センターに直接寄せられる情報のみでは、地域の高齢者の実態を全て把握することは困難である。そのため潜在する課題を発見するためには、地域に出向くことが必要だ。いきいき百歳体操など地域の集いに職員が参加していくことで、住民から地域の情報を収集することができるほか、“顔の見える関係性”が構築されることで、潜在的ニーズを拾い上げることが容易となる。
今後に向けた 抱負 (200 字程度)	デイサービスやグループホームでの介護体験は初めてで、そこはどのような目的で、どのような方が利用されるのか、理解につながった。社会福祉士をめざす私にとって忘れられない体験となった。今回のインターンシップをモチベーションの 1 つとして、社会福祉士国家資格取得に向け勉学に励んでいきたい。
インターンシッ プをして気づい た、実習先の魅力 (300 字)	センター内の専門職が 1 つのケースに対してチームアプローチをしていくことで、効率的かつ迅速に支援していくことが可能である。 地域包括支援センターは地域の高齢者の相談窓口として運営されている施設だが、原則として対象外とされている障害者・児童などの相談が寄せられることもある。そういったケースでも、他の機関・職種につなぐなど、たらい回しにすることなく柔軟に対応していた。また、センター内での相談対応だけでなく、地域に出向き直接働きかけ、地域の潜在的ニーズを拾い上げていくなど、地域における地域包括支援センターの役割の重要性はとても大きく、やりがいのある仕事であるように思う。そしてなにより、地域住民を支援していく過程 1 つ 1 つに、スタッフの熱意が感じられた。
写真 (1~3 点)	